

インフルエンザ 予防接種説明書

予防接種を受ける前に以下をよくご覧ください。わからないことは接種を受ける前に医師にご質問ください。

【どんな病気？】

インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。感染した人の咳やくしゃみにより空気中に広がったウイルスを吸い込む、もしくは手に付着したウイルスが鼻や口の粘膜を通して体内に入り感染します。インフルエンザの症状は 38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れ、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。普通のカゼに比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎を伴う等、重症になることがあります。

【どんなワクチン？】

インフルエンザワクチンは毎年、流行予測により選定される、A 型株 2 種類、B 型株 1 種類の型 3 種類のウイルス株で構成された 3 価ワクチンでしたが、平成 27 年度より A 型株 2 種類、B 型株 2 種類のウイルスで構成された 4 価ワクチンに変更され、より広く流行に対応できるワクチンとなりました。重症化や合併症の発病を予防する効果は証明されており、高齢者については、接種しなかった場合に比べて死亡の危険を 1/5 に、入院の危険を 1/3～1/2 に減少させることが期待できます。ワクチンの予防効果が現れるのは、接種後約 2 週間、持続するのは 5 か月程度と考えられています。

【副反応は？】

主な副反応は接種部位の発赤、腫れ、痛みが接種者の 10～20%に起こり、全身反応としては、発熱、頭痛、寒気（悪寒）、だるさ（倦怠感）などが接種者の 5～10%に起こりますが、いずれも通常 2～3 日でなくなります。

また、稀にみられる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状（接種後 30 分以内に出現する呼吸困難等の重いアレルギー反応のこと）が見られることがあります。

その他、重い副反応としてギラン・バレー症候群、急性脳症、急性散在性脳脊髄炎（免疫力の異常で自分自身の体を攻撃して起こる脳や脊髄の病気）、けいれん、肝機能障害、喘息発作、紫斑などが報告されています。

【接種対象年齢・回数・間隔等】

予防接種名	接種対象年齢又は対象者	回数	接種間隔	当センター接種料金	備考
インフルエンザ	生後 6 か月以上～13 歳未満	2 回	2～4 週（免疫効果を考慮すると 4 週が望ましい）	1 回 ¥4,500	毎年 10～12 月頃接種
	13 歳以上の全年齢	1 回	—		
	60 歳以上の一部の方には助成があります※	(1 回又は 2 回)			

※ 大阪市の場合：65 歳以上、及び 60～64 歳で心臓・腎臓・呼吸器等に身体障がい者 1 級相当の障がいがある市民を対象に費用助成を行っています。実施期間や接種回数に制限がありますので、詳細についてはお問い合わせください。

接種後の注意

- ・接種当日の激しい運動は避けてください。
- ・接種部位に、発赤、いたみや硬結（しこり）をみることがありますが、特に心配はいりません。熱感あれば冷やして様子を見るようにしてください。
- ・特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センター（Tel.06-6768-1486）へご連絡ください。

☆次頁の各ワクチン共通の説明書も、必ずご覧ください。

各ワクチン共通の説明書

1. 一般的な注意

- (1) 受ける予防接種について、この予防接種説明書をよく読んで、必要性や副反応についてよく理解してください。わからないことは予防接種を受ける前に質問してください。
- (2) 接種当日は、母子健康手帳を持ってきてください。（成人で母子健康手帳のない場合は結構です。）
- ◎受けられる方がお子さんの場合については、保護者の方は以下の点についても特にご注意ください。
 - (1) 当日は体温を計り、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わった様子がないことを確認してください。接種に連れていく予定をしても体調が悪いときはやめてください。
 - (2) お子さんの日頃の状態をよく知っている保護者の方がお付き添いください。
 - (3) 予診票はお子さんを診察して接種する医師への大切な情報です。ありのままに記入してください。

2. 病気にかかった後の接種間隔

麻疹、風疹、水痘、おたふくかぜ等にかかった場合には、全身状態の改善を待って接種してください。医学的には、免疫状態の回復を考えて次の間隔をあけてください。

麻疹（治ってから4週間程度）	風疹、水痘、おたふくかぜ（治ってから2~4週間程度）
突発性発疹、手足口病、伝染性紅斑（治ってから1~2週間程度）	普通感冒や上気道炎（治ってから1週間程度）

3. 予防接種を受けることができない人

- (1) 明らかに発熱のある人（明らかな発熱とは、接種場所で測定した体温が37.5℃以上を指します。）
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。急性の病気で薬を飲む必要がある人は、その日は見合わせるのが原則です。
- (3) 予防接種の接種液の成分でアナフィラキシー（接種後30分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）を起こしたことがある人。
- (4) BCG接種の場合は、外傷などによるケロイドができたことがある人。
- (5) その他、医師が接種不相当と判断した人。

4. 予防接種を受ける場合、医師とよく相談しなくてはならない人

次に該当すると思われる人は、かかりつけの医師がある場合には必ず前もって診ていただき、診断書又は意見書をもってからご来院ください。

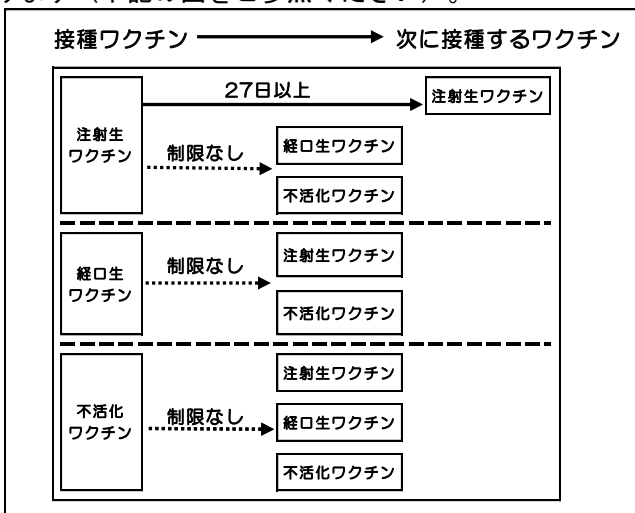
- (1) 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気及び発育障がいなどで治療を受けている人。
- (2) 予防接種後2日以内に発熱及び、全身性の発しんなどアレルギーを疑う症状がみられた人。
- (3) 接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーの症状が出るおそれのある人。
- (4) 今までにけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある人。
- (5) 過去に免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる人。
- (6) 家族、接触のあった友だちなどに、麻疹（はしか）、風疹、おたふくかぜ、水痘（みずぼうそう）などの病気が流行している時で、予防接種を受ける本人がその病気にかかっていない人。感染して潜伏期間（症状が出ない期間）中の場合がありますので、かかりつけの医師と事前によく相談してください。
- (7) BCG接種については、過去に結核患者と長期に接触があった人、結核に感染している疑いのある人。

5. 予防接種を受けた後の一般的な注意事項

- (1) 予防接種を受けたあと30分以内に、急な副反応がおこることがあります。接種後は安静に待機し、体調に変化がないかどうか様子を見てください。
- (2) 接種部位は清潔にしてください。入浴は差し支えありませんが、接種した部位をこすることはやめてください。接種当日はいつも通りの生活ができますが、はげしい運動は避けてください。
- (3) 高熱、おう吐、けいれん（ひきつけ）など特に異常な症状があった時には、主治医か休日診療所を受診し、その結果を当センターへご連絡ください。

6. 予防接種の接種間隔

異なる種類のワクチンを接種する際、注射生ワクチンと注射生ワクチンは27日以上間隔をあける必要があります（下記の図をご参照ください）。



予防接種の種類
【注射生ワクチン】 麻疹風疹混合(MR) 水痘(みずぼうそう) 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ) 結核(BCG) 黄熱
【経口生ワクチン】 ロタウイルス(1価・5価)
【不活化ワクチン】 4種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ) 3種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風) 2種混合(ジフテリア・破傷風) インフルエンザ ポリオ 破傷風 日本脳炎 ヒブ(インフルエンザ菌b型) A型肝炎 B型肝炎 狂犬病 髄膜炎菌 肺炎球菌(13価・23価) HPV(ヒトパピローマウイルス)
◎同じ種類のワクチンを複数回接種する場合、それぞれのワクチンに定められた接種間隔があります。医師とよく相談したうえで接種を受けてください。